

## 第1回 本のまちビジョン検討委員会 議事要旨

日 時：令和6年8月6日（火）14：30～17：00

場 所：市役所議会棟2階大会議室

### 1 会議次第

- 1 開会
  - 2 市長あいさつ（趣旨説明）
  - 3 出席者の紹介
  - 4 会長の選出
  - 5 明石市における「本のまち明石」の取組内容（説明）
  - 6 意見交換
    - （1）本のまちの理想形
    - （2）市民ワークショップの内容検討
  - 7 その他
- 閉会

### 2 出席者

#### 委員

吉成会長 木原委員 佐伯委員 嶋田委員 瀬尾委員 平賀委員  
（欠席）横山委員

#### 関係部署

##### 明石市

丸谷市長 佐野副市長 福嶋理事（総合政策担当）

##### 政策局

久保井政策局長 山口プロジェクト部長  
中川次長（本のまち担当）兼プロジェクト推進室課長

##### 教育委員会事務局青少年教育担当

谷田青少年教育担当課長

##### プロジェクト推進室本のまち担当

神尾係長 山居事務職員 森事務職員

### 3 議事内容

(司会進行：山口プロジェクト部長)

#### 1 開会

傍聴者数及び会議成立の報告、資料確認

#### 2 市長あいさつ

#### 3 出席者の紹介

資料2「出席者名簿」参照

#### 4 会長の選出

司 会：これより、当委員会の会長の選出についてお諮りいたします。会長の選出方法につきましては、「本のまちビジョン検討委員会に関する要領」第5条第1項により、委員の互選により定めるとされていますが、ご意見等がございましたらお願いいたします。

委 員：(意見無し)

司 会：特にご意見がないようですので、事務局から提案させていただきます。

会長には、今年度から本のまちづくり推進アドバイザーを務められ、みんなの森ぎふメディアコスモス総合プロデュースのご経験もあり、図書館や本を活用したまちづくりに精通しておられます、吉成委員にお願いしたいと存じますが、いかがでしょうか。

委 員：(拍手)

司 会：皆様ご賛同いただきましたので、吉成委員に会長をお願いすることに決定いたします。

#### 5 明石市における「本のまち明石」の取組内容(説明)

会 長：ここからは私が進行させていただきます。皆さんよろしくお願いたします。

まずは明石市の取り組み内容について、事務局からご説明いただきたいと思います。

(中川次長(本のまち担当)より説明)

※資料4「本のまちビジョン検討委員会説明資料」参照

#### 6 意見交換

##### (1)本のまちの理想形

会 長：ビジョンの策定に向けた検討に入る前に、委員の皆さんから事務局からの説明に対する不明点や質問、意見等があればお願いします。

委 員：今回のビジョンの位置づけについて、例えば明石市生涯学習ビジョンはあかしSDGs前期戦略計画を上位計画としたものと思いますが、本のまちビジョンも同様ですか。

事務局：本のまちビジョンはあかしSDGs前期戦略計画の下に紐づく形で考えている。

会 長：ありがとうございます。他に無ければ、ひとまず話を進めようと思います。スケジュール

ルに沿って進めるためには、本のまちの理想やあり方について議論する必要がありますが、まずは現在市内にある動きを切り口にするのがよいかと思います。例えば事務局から紹介されたブックスポット事例について、皆さん感想などございますか。

委員：活動者がそれぞれ抱える課題や悩みや共有できる場が必要だと感じます。実際の集まりでも、メディアやポータルサイトでもよいので、情報交換・情報発信する仕組みがあることでスポットや人同士の連携が生まれ、解決につながるのではないのでしょうか。

委員：事務局説明にあった、今ある事業や施設、取り組みをどう位置付け直し、充実させ、そこで動く人をどうしていくか、という議論は重要ですし、我々もそこに主眼を置きがちです。ただ、本のまちづくりの趣旨の一つが「優しさを醸成する」であることから、明石で暮らしている人の暮らしの視点からも検討していく必要があると思います。

会長：ありがとうございます。これから整備する図書館のコンセプトである「リビング&ライブラリー」の意味するところは、本を借りる場や環境だけでなく、本がある場所や空間、そこにいる人や、その人たちの力などが重要ということだと思います。

先日事務局と取材した「夢文庫・魚住」は、小学校コミセン内にあり、喫茶とモーニングも提供しており、本のある空間とリラックス空間が同居した好事例だと感じました。すみません、少し脱線しましたが、他には。

委員：行政が作るビジョンは課題解決が目的になりがちですが、本のまちのビジョンは課題解決ではなく「価値をどう創っていくか」というビジョンになると思います。

明石に2館ある市立図書館が5館に増えようとしている中で、「本は公が用意してくれたものを楽しむ」という感覚が浸透している気がします。そうではなく、本のまちを実現するときに市民はどう参画できるか、その参画の余地はどこにあるかが重要です。市民が1人でも多く「本のまちに自分もコミットできた」という実感を持つためにはどんな方法があるかということ、ぜひビジョンの中で示したいと思います。

委員：レファレンスという専門性があり、また無目的かつ無料で利用できる公園的な存在というのが、これまでの図書館の姿。市民参画する先が公共図書館か、あるいは自分たちで作る場なのかは分からないが、その余地がどこにあるかは探っていきたいですね。

他市ではブックスポットかつ駄菓子屋という事例もあります。本を持ち寄ったり、出合いが生まれて一緒に何か始めようという話が出たり。駄菓子を買いに来た子どもたちも同じ空間で過ごせる。公共図書館でもその雰囲気づくりができればと思います。リビング&ライブラリーの発想の先にはそれがあるのだろうと思います。

委員：自自身で運営しているブックスポットでは、読み聞かせに使用した本の題材に応じて工作をやったり、スイカの絵本を読んだ際、高齢の方が語るスイカ割の思い出に子どもたちが聞き入っていたこともありました。本を通じてみんなが話をできたり、本のことを語り合える場は重要です。そうした場を設定して、それぞれが抱える悩みや課題を行政が拾い上げ、解決の糸口を見つけるというのも、本のまち明石に望むことです。

会長：本はよい媒介になりますね。本が人をつなげる場合もあるし、よい相乗効果が生まれることもあります。本を単純に「物」としてだけ見るかどうかでも変わってきますね。

委員：集まった人の話を聞いて欲求を引き出して何かの活動に結びつける、というある意味

「おせっかい」なことを公共図書館はやれておらず、「本を読む」ことがゴールになっている。先ほど仰ったような活動は、そういう部分をカバーする重要な取り組み。

会長：「人と人をつなぐ」ことは重要ですね。現在は地縁から自由になり、便利なサービスを楽しむ世の中。その中でつながりやコミュニティを、地縁とは違った形で取り戻すというの、本のまちづくりに期待される社会的効果かもしれません。

委員：本を通じてつながるだけでなく、「本を読む」行為は1人になれる、ある意味では避難所的な役割もあると思います。例えば、ブックスポットが引きこもりの方の居場所になっている事例があったり、私自身が学生の頃、教室よりも図書館の方が落ち着いてられる、図書館で会う人の方が仲良くなれるという思いがありました。どんな人でも受け入れるような性質が本のある場所にはあって、その点が「思いやりや優しさの溢れるまち」につながると感じます。

会長：そうですね。ちょうど昨日、人とつながりたくない人向けの読書会に参加してきました。人とつながってもいいし、つながらなくてもいい、そんな緩さが図書館の特徴であり、大切なことでもありますね。

委員：図書館に1人である人も、わざわざ家から外に出てくるということは、全く人と関わりたいわけではないわけではないと思います。引きこもっている人も、受験勉強してる人も、別に話したり友達になりたいわけではないけど、人の存在を感じる中に居たい。公園や図書館はそういうことができる場所ですね。

委員：今のお話を受けて考えると、明石SDGsの前期戦略計画における本のまちの推進の位置づけについて、「豊かな心を育む文化芸術の推進」以外の部分にも波及していく可能性がありますね。ビジョンに、その具体的な内容を示せたらと思います。

話は変わりますが、「明石市自治基本条例」に“市民はまちづくりに関する情報を知る権利を有する”とありますが、これを図書館が保障すべき内容だと思えます。本日見学したウィズあかしには市政情報だけでなく、地域のまちづくり情報が網羅されていましたが、本来は市立図書館にもなければならぬ情報ではないでしょうか。

委員：明石市には公文書館のような施設はありますか。

事務局：公文書館ではないが、市役所内の行政情報センターで文書公開を受け付けている。

委員：長野県立図書館では博物館併設の公文書館がありますが、資料、公文書の保存、収集それから公開について、図書館と役割分担をしています。行政情報だけでなく博物館なども、文化という大きな括りで本のまちとリンクしそうですね。

会長：事務局の説明にあった円形の図、この図でカバーできていないもの、本のまちとしてこのあたりも関わってくるのではというものはありますか。

委員：近年提唱されている概念として「MLA連携」があります。もともと同一だったものが別の施設に分化した博物館や美術館（M）、図書館（L）、文書館（A）ですが、資料のデジタル化により連携の重要性が増しています。明石にある文化博物館や天文科学館も本のまちに関わってくると思います。

会長：MLA連携が上手くいっている事例は少ないですが、「本＝情報」という見方もできます。また、分化したものを統合するという発想は、本のまちビジョンにおいても重要ですね。

- 小中コミュニティ・センターもこの図に入っていないませんが、どなたかご意見ありますか。
- 委員：コミセンの位置づけについては、どの暮らしの主体から見るかでも変わるのでは。例えば大人目線か子ども目線かでもコミセンの見方は変わりますよね。ある視点に沿って場を見て行くというやり方で、今あるものの整理ができるのではと思います。
- 会長：「ブックスポット MAP」も現状は大人目線だけで作られたものですね。
- 委員：施設の配置であって、特定の視点に沿った地図ではない。それだと具体的なイメージが湧きにくいので、例えば子ども目線でまちや施設を見るのはどうでしょう。明石は子育て施策に注力していて、読書推進などのメインターゲットも子どもであることが多い。
- 会長：歴史文化においても、例えば明石と淡路島の間を船で移動しているという地元の人しか知らない生活の情報を、小学生にどう継承するか、といった視点が重要ですね。
- 委員：やはりこの円形の図の解像度をどう高めていくかが重要ですね。今この中には、市内の本のある場所が示されていますが、大人は市立図書館や県立図書館があることが分かっても、先ほどから話に出ている子ども目線では、子どもは基本的に校区から出ないから、学校図書館やこども夢文庫までしか見えないかもしれない。その見え方の違いを意識して、拠点同士のつながりを見て行けば、「本のまち」を考えるヒントになりそうです。
- 委員：明石市内で過ごす時間が最も長いのは、子どもたちであるとも言えます。子どもたちに本に触れて欲しいなら、彼らの生活圏である学校図書館やコミセン、自治会館などがどうあるべきか考えたほうがいいですね。特に学校図書館は、好きな本と出合える、司書と交流する場所という以外にも、情報や探求教育においても大きな役割を持ちます。例えば百科事典の使い方など。ただそれには先生だけではなく、図書館なども一緒に取り組む必要があります。そう考えていくと、自ずと連携の仕方も見えてくるのでは。
- ビジョンには抽象的な内容ばかりでなく、1人の生活者の視点から見た機能連携だったり、そこで与えたい価値や役割について示したいですね。
- 委員：どういう方向性でどういうものを目指すかが重要だと思います。例えば子ども、若者、働くこと、暮らすこと、年齢を重ねること、など各世代を柱に設定し、それぞれの視点から今ある資源を見て、すでに出来ていること今後必要なことを整理する。さらにその中で公が担うこと、住民あるいは民間が行うこと、官民が協働すべきこと、のように分ける。そのように議論を進めていくのはいかがでしょうか。
- また学校図書館について、教育のデジタル化が進む中、デジタル情報の上手な使い方を身につける（デジタルシチズンシップ教育）ためにも、重要な役割があると思います。
- 委員：以前学校図書館にいましたが、常駐で、学校の先生とは違う立場で全学年の子どもと関わっていました。子どもたちは、図書室に人がいることで、質問できたり、本の探し方を教えてもらえたり、「知りたい」欲求を存分に発揮することができます。人を介することで子どもたちの興味関心を伸ばすということも、学校図書館の意義だと思います。
- 委員：学校図書館が図書の時間しか開いていなかったり、司書が1人かつ兼務だったりすると、子どもが学校図書館で日常的に本に触れられる状況づくりは難しくなります。その機会や環境をどう確保するかもビジョンで示していきたいですね。
- 事務局：明石市では21名の学校司書を任期付き臨時職員で採用しており、1人2校の兼務で配

置。1週間のうち2校、2日もしくは1日ずつ勤務。基本的に司書資格あり。サポーターは、地域の方がボランティアで読み聞かせや本の整理などの活動をしている。

委員：子育て世代の学校図書館に対する期待は大きく、学校図書館を入口にブックスポットや市立図書館の利用につながるハブとしての役割も持ちます。そういう意味でも学校司書の役割はすごく大きいと思います。すでに話が出ていたが、学校司書には情報リテラシー教育の最前線として活躍してほしいという思いもあります。次に市民参画について、私は小学校の読み聞かせのボランティアをしていましたが、サポーターは各校ごとに存在していて、活動頻度などは学校の方針で左右されます。他校区との横のつながりや連携、横断的な活動を支える仕組みがあればと思います。

委員：話が戻りますが、ビジョンの柱に各世代を、というのはいいですね。例えば縦軸に世代を、横軸に場やスペースを並べてマトリックスで整理をしてみると、どの世代にとってどこがどういう場所なのかという整理になるのではと思います。例えば、シニア世代にとって学校図書館は全く接点がない場所ですが、そこをシニア世代に開放していくとどうなるか、というような。場合によっては地域に分けて考えてもよいと思います。

会長：その整理の中でどこにも当てはまらないものも大事ですね。積極的に活動している人ほど個人でされていることが多いので、そういう人たち同士を関連づけると、さらに何か生まれるかもしれません。

それでは、ビジョン策定に向けての現状把握について、今日話したようなやり方で、次回さらに深掘りできればと思います。明石市は子育てに注力されているので、やはり子どもを中心に考えたいですね。その他の世代は、何か享受するとかというよりは参画する方向で、自分はどう関われるかという書き方をしたほうがよいのではないかと。

委員：その方向でいいと思いますが、「市民」という理想にすべての人を押し込むことは避けたいですね。主体性を持って、公共的なマインドで…という人だけが市民ではない。中にはケアが必要な人もいるし、そのあたりの考え方や書き方は気を付けたいです。

会長：そうですね、あくまで最初の入り方として子どもを中心に、ということで進めたいと思います。またビジョンに関しては、今日意見が出ていた知る権利や情報の公開、学校のあり方といったことを網羅しつつ、「どこでも誰でもいつでも」という社会的包摂の視点、価値の創造、市民参画といった点をキーワードにしていければ。

## (2)市民ワークショップの内容検討

会長：それから、冒頭のスケジュール説明でありました市民ワークショップの内容検討も行う必要があるということで、事務局、具体的に決まっていることなどありますか。

事務局：9月8日（火）に定員30～50名で実施予定。

会長：ありがとうございます。委員の皆さん、何かご意見ありますか。

委員：要望や抽象的な内容より、本や人とどう関わりたいか、何が生まれるかを話し合いたい。「私ならこれができる」「コミセンや学校図書館をこんなふうにしたら実現できる」というような。その中に我々も入って話し合えたらいいのではと思います。

会長：私たちもその中の1人として、皆さんと対等に話せるよう場がいいですね。

- 委員：子どもも参加してもらうのはどうでしょう。子どもだけがいいのか、大人と一緒にいいのかというのはありますが。
- 委員：私も子供が参加するのはすごくいいと思います。あとは、今回のワークショップとは別に、本に関わる現場の人が集まる場があるといいのかなと。例えば図書館の職員が学校司書と話すことで、新しい気づきや課題を共有できるかもしれない。ブックスポットの方やボランティア、書店、出版社の方が入るのもいい。
- 会長：本に関わる方々の意見を吸い上げる場は、あまりありませんからね。同じ立場の人同士でフラットに話し合えるとよいというのは、中高生も同じですね。
- 委員：ワークショップは困りごとより「本のまち」をテーマに夢を語る場になれば。
- 委員：本のまちへの市民参画ということであれば、今回だけでなく本のまちについて語り合う場を仕組みとして継続することは重要ですね。その中で若者だけの回もあれば、世代間で語り合う回があってもいい。世代間での交流は生まれる気づきも多いです。
- 会長：本のまちにおける主体形成のための、1つの参加のデザインとしての仕組みですね。ビジョン策定と並行して検討するのもよいかもしれません。
- 委員：それらの場全てが行政主導でなくてもよいと思います。ワークショップをきっかけに自主的な集まりや活動に派生していくと理想的ですね。行政の役割はそれらの活動や場づくりのコーディネートにあるのではないのでしょうか。
- 会長：はい、ある程度議論がまとまったところで定刻が近づいてきましたので、この辺りで事務局にお返ししたいと思います。
- 市長：委員の皆様、クリエイティブなご意見をいただきありがとうございます。MLA 連携や市内活動者の思いなど、今回の検討委員会を通じて、これまで知らなかったことが明らかになってきたと感じています。また今後の検討は市民参画、特に子どもを軸に進めていくというお話もいただきました。これまで開催してきた子ども会議を含むタウンミーティングを通じて、様々な方からお話を伺うことの重要性を実感しております。そうした取り組みについても、しっかりと検討して実行していきたいと思っております。
- 皆様、本日は本当にありがとうございました。
- 司会：吉成会長、これまでのご進行ありがとうございます。また委員の皆様方におかれましても、様々なご意見を交えて前向きな議論をしていただき、ありがとうございました。これからのビジョン策定に向けて、しっかりと取り組んで参りたいと考えておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

## 7 その他

### 事務局からの連絡事項

今後のスケジュールについて

- ・9月8日（日）…本のまちビジョン市民ワークショップ開催予定
- ・10月 …第2回本のまちビジョン検討委員会（日程調整中）

閉会